

◎道路功績者の表彰

本會道路功績者表彰規程に依り左の通表彰し、關係地方廳に其の傳達方を依頼した。

岡山縣 (五月十日)

表彰狀 一等功績章 三ツ組木杯

岡山縣道路手

藤井光太郎
藤原嘉平

同

守屋元太郎
毛利孫一郎

同

石居幾太

同

石原福一

同

津組宇一

同

石原軍一

同

内田武輝

同

同

同

同

表彰狀 二等功績章 單杯

岡山縣道路手

石原福一

同

津組宇一

同

石原軍一

同

内田武輝

長瀬團次郎

◎自動車國道建設調査

國土防備確立のため機動の速さを見めるためにも、長期戦に備へる國內交通網の整備のためにも、廣い自動車道路を建設せねばならない。奧塞國ドイツの鐵壁陣がヒットラー自動車道路の整備によつたものであることは周知の事實である。内務省國土局では戰時國土計畫の基礎となるこの「必勝道路」の建設についていよゝ本格的に乗り出すこととなり、東京―福岡―鹿児島間の大道路のうち、最も難關とされてゐる中部地方と關西地方を結ぶ山岳地帯の工事に關する調査を行ふこととなつた。名古屋―大阪―神戸間百六十キロに二十四メートル道路を敷くもので、その完成豫定年度は未定であるが、戰時下どうしても必要なものであり、なんとかして早く完成したいと非常な意氣込みである。これがため五月十日午前十時から内務省で自動車國道建設調査打合せ會が開催され、内務省側から新居國土局長、鈴木技監、岩澤澤道路課長等地方側から名古屋、大阪、神戸各土木出張所長、愛知、三重、京都、大阪、兵庫各府縣土木部長、名古屋、大阪、神戸、京都各市土木局長等が參集、午後三時まで慎重協議の結果左のごとく決定した。

- (一) 調査委員會を設置して急速に調査を完成し實現に邁進する。
- (二) 急速に建設に必要な經濟調査、路線選定、設計調査を行ふ。

(三) 調査費用は十萬圓として内務省から二萬圓、各府縣、都府で八萬圓を負擔する。

(四) 本月下旬、大阪で第一回委員會を開き實際的な打ち合せを行ふ。

委員會の構成は大體二十人程度の豫定であるが、資材、勞力の不足をも克服すべく地方の協力を要望し、飛行機の離着陸も可能な飛行場の帯にもしたいと大きな抱負に満ちてゐる。

◎戸倉峠開鑿工事起工式祝辭 内務省大阪土木出張所に於いて二十號戸倉國道改良工事起工式を五月二十日舉行せられたが本會々長は左の祝辭を贈られた。

祝 辭

二十號國道戸倉峠改良工事實施ノ準備成リ本日ヲトシ茲ニ起工式ヲ舉行セラル洵ニ欣幸ノ至リニ堪エス

抑モ本國道ハ兵庫縣安栗郡奥谷村ヨリ鳥取縣八頭郡池田村ニ至ル阪神地方ト山陰地方トヲ連絡スル捷路ニシテ交通上産業上ハ勿論軍事上最モ緊要ナル幹線道路ナリ然ルニ嶮難峻阻ナル戸倉峠ノ横ハルアリテ行路ヲ阻ミ其ノ不便不利甚シク之ヲ改良ヲ待望スルト久シキモノアリ當局茲ニ鑑ミル所アリ之ヲ開鑿工事ヲ施シテ難路ヲ克服シ以ツテ其ノ不便不利ヲ除去セムトス

念フニ本工事完成スルノ曉ニ至テハ沿線地方ノ開發ヲ招來スルト共ニ交通上産業上將又國防上ニ貢獻スル所蕃鮮少ナラサルヘシ

關係官民協力一致克ク不斷ノ精進努力ヲ盡シ速ニ所期ノ目的ヲ達成セラレンコトヲ切望シテ已マサル所ナリ

一言所懐ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和十八年五月二十日

道路改良會々長正三位勳一等法學博士 水野練太郎

◎吳隧道開鑿並ニ吳港修築工事起工式祝辭

吳隧道開鑿並ニ吳港修築工事起工式ハ五月二十四日内務省大阪土木出張所に依つて舉行されたか本會々長は左の祝辭を贈られた。

祝 辭

本日茲ニ特二十四號國道吳隧道開鑿並ニ吳港修築工事起工式ヲ舉行セラル洵ニ欣幸ニ堪エサル所ナリ

抑モ吳市ノ地タル瀨戸内海ニ臨ミ物貨運輸ノ要衝ナルモ不便ニシテ之ヲ利用スル能ハサルヲ憾トセリ然ルニ大東亞戰爭開始以來軍需物資輸送上極メテ緊要ナル地位ヲ占ムルニ至レリ茲ニ於イテ政府ハ其ノ重要性ニ鑑ミ輸送力ノ増強圖滑ヲ圖リテ戰爭完遂ニ資セシコトヲ欲シ新ニ隧道ヲ開鑿シテ國道ヲ改良スルト共ニ吳港ノ修築工事ヲ施行シ以ツテ時勢ノ要求ニ即應セントシ夫等工事施行ノ準備ヲ整ヘ將ニ工事ニ着手セラルルコト、ナレリ

惟フニ本事業完成スルノ日ニ於イテハ軍都吳市ノ面目ヲ一新スルノミナラス亦軍事上ニ寄與スル所蓋シ大ナルモノアルハ信シテ

疑ハザル所ナリ

翼クハ關係官民各位ハ克ク不斷ノ努力ヲ竭シ熱誠ナル協力ヲ致シ以ツテ事ニ從ヒ一日モ速ニ工事ノ完成ヲ期シテ遺算ナカラシムコトヲ

聊カ所懐ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和十八年五月二十四日

道路改良會々長正三位勳一等法學博士 水野鍊太郎

◎安藤内務大臣の略歴

内務大臣陸軍中將安藤紀三郎氏は兵庫縣の出身、六十五歳、明治三十二年陸士を卒業、日露戰役には遼陽、奉天戰に参加、名譽の負傷をした。のち陸軍省人事課員を経て大正七年北米に出張、歩兵第二聯隊長、陸軍省恩賞課長、第三十旅團長を歴任、旅順要塞司令官を最後として昭和九年豫備役に編入され、支那事變勃發するや應召して兵團長となつた。十四年十一月山下奉文將軍の懇請により北支建設のため早川三郎氏の後を襲ひ北支新民會の副會長となり、機構の改革に、人事の刷新に縦横の才を揮ひ新民會の基礎を確立した功績は大きい。十六年十月大政翼賛會の改組に伴ひ副總裁となつたが、當時國務大臣に就任してはどうかとの話も持ち上つたが、「指導は國民席でやる」といつて斷つたのは有名な話である。誠實と情熱の人といはれるだけに翼賛運動に挺身、その健全な發達に努力し翼賛運動の意義、使命などの發展に伴ひ十

七年六月つひに國務大臣に就任、今日にいたつた。内務大臣就任で翼賛運動に關する深い經驗が、内務行政の面にも現れることは必至で、行政權の運用と國民運動との融合調和には大いに期待すべきものがある。

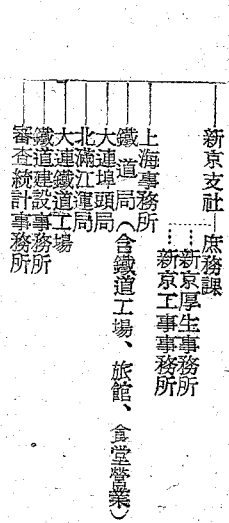
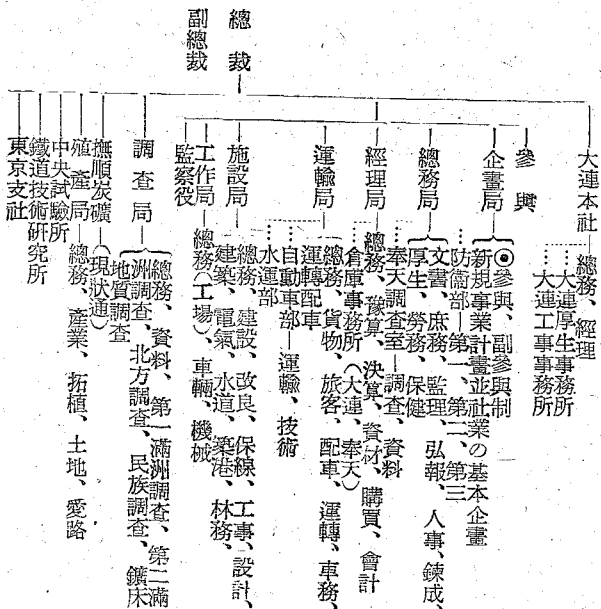
◎唐澤内務次官の略歴

内務次官唐澤俊樹氏は長野縣出身、本年五十三歳、大正四年東大法科を銀時計組で卒業した俊才、昭和七年内務省土木局長、同九年警保局長に榮進したが二・二六事件によつて官界を去りそれ以來浪人三年、その間政變のある毎に要職への復活を噂されてゐたが、同十四年阿部内閣で法制局長官に拔擢され縦横の才腕を揮ひ、同内閣退陣とともに再び官界を去つた。その後東亞研究所常務理事に納まつてゐたが興亞同盟の發足に際し研究委員會委員長となつた。氏は内務畑の生え抜きで後藤内相の下における警保局長時代は總選舉に際し、いはゆる「收賄一掃」を斷行して政黨關係を霞ひ上らせ、又法制局長官として登場するや政策政綱の立案に携り、貿易委員問題では強硬に押しまくつたが修正を餘儀なくされた。由來唐澤俊樹といへば後藤文夫を聯想、後藤文夫といへば唐澤俊樹を聯想させるほどの兩者の繋りがあり、内務行政においてゆくと可ならざるはなく押しも押されぬ第一人者となつたが、氏の智慧袋はどんな椅子をあてがはれても常に餘裕綽々たるものがあり、東條内閣總理大臣、安藤内務大臣に懇望され

て非常時局下における内務行政の元締を引受けた大物次官で、内務行政に經驗なき安藤内務大臣のよき女房役として期待されるころ大きい。

◎滿鐵會社の新機構と局長の氏名左の如し

滿鐵新機構表



- | | |
|----------------|------|
| 企業局長 | 岡田理事 |
| 總務局長 | 岡田理事 |
| 經理局長 | 入江理事 |
| 運輸局長 | 足立理事 |
| 施設局長 | 鈴木理事 |
| 工作局長 | 渡邊理事 |
| 首席監察役 | 江崎理事 |
| 調査局長 | 内海理事 |
| 殖産局長 | 佐藤理事 |
| 東京支社長兼東亜經濟調査局長 | 古山理事 |

◎翼賛會の機構改正

翼賛政治會では機構の改正に人事組織を決定し五月十二日阿部總裁より發表があつた。顧問には貴族院六名衆議院六名各界一名で本會長水野鍊太郎氏も加はつておる。そして總務會長前田米藏氏總務四十六名會計監督四名代議士會長小泉又次郎氏衆議院部座

長前田米藏氏 企画部長 勝田永吉氏 民情部長 龍正雄氏 情報部 宣傳部長 津雲國利氏 政務調査會會長 光庸夫氏の顔觸である。

◎本會評議員松本健次郎氏

石炭統制會々長松本健次郎氏は平生飢三郎氏辭任の後をうけ四月二十七日重要産業協議會々長に就任した。

◎本會々長水野鍊太郎氏 本會々長水野鍊太郎氏は興亞同盟總裁事務取扱たりしが今回餐會と一元化され興亞運動強化さるゝこととなつたので興亞總本部總理となられた。

◎本會評議員湯澤三千男氏

前内務大臣湯澤三千男氏は四月三十日貴族院議員に勅選せらる

◎東大名誉教授法學博士立作太郎氏

立作太郎法學博士は五月十三日死去、享年七十。

◎内務省土木試験所談話會

第二百三十四回技術談話會話題(昭一八、五、二午後一、三〇)

一、鐵筋コンクリートT桁橋標準設計案(三〇分) 梅津 技手

二、二鉸拱橋の振動に關する理論的算定と實測結果との比較

(三〇分) 村上 技師

三、表面波の壓力分布に就て

(三〇分) 佐藤 技師

四、擁壁に作用する地震時土壓に關する實驗的研究(第三報)

(三〇分) 松尾 技師

◎近刊圖書雜誌(寄贈交換)

◎土木試験所報告(第六九號)

(村上技師) 二鉸拱橋の振動に關する理論的算定と實測結果との比較。牧野囑託梅津氏記 鐵筋コンクリートT桁橋標準)

◎土木學會誌(第二九卷四號)

◎汎交通(四月號)(南方建設と科學技術)

◎三田學會雜誌(第三七卷一、二、三號)

◎大阪商工會議所月報(第四三一號)

◎民族學研究(第一卷四號)

◎土木雜誌(四月號)

◎都市公論(第二六卷四號)

◎自警(第二五卷三號)

◎自動車三聯會報(四月號)

◎土木滿洲(第三卷二號)

◎東大陸(五月號)

◎東亞經濟紀要第九輯 東亞經濟論の政策學的性格(關西學院大學 商經學部産業研究所)

◎斯民(第四五〇號)

◎大大阪(第一九卷五號 決戦下の大阪市政特輯)

◎水道協會雜誌(第二二〇號)

◎科學技術動員(第二卷五號)